

行雲流水

No. 5 7 令和3年6月7日発行

生徒の「活躍の舞台」を実現したい

校長 寒河江 正人

皆様もご承知のとおり、村山地区の高校総体に端を発した**感染クラスターの連鎖**。
そして、その後の混乱。

一度「**感染の火の手**」が上がると、「**その火を消す**」には思いのほか、難儀・難渋することを誰もが思い知らされました。

さて、いよいよ「**北村山中学校総合体育大会の開催**」が目前となりました。

5月の駅伝競技に続き、今週の水泳競技、そして、2週間後のその他の全競技。
何としても、開催・実施を実現させるべく、関係者一同、諸準備を進めております。

そもそも地区単位中体連の総体の開催の可否は、設置者たる市町村教育委員会と地区単位中体連・地区中学校長会の合意の下で、開催されるものであります。

本北村山地区は、昨年度来、この大原則に基づいて、臨時の中学校長会で、開催の可否や開催・運営の方法等を協議し、北村山中体連として、3市1町の教育長さんにご説明の上、ご了承をいただいて、実施して参りました。

ですから、今年度の開催案のベースには、昨年度の新人総体を成功裏に終えた、その開催・運営の実績・財産等を踏まえて、整備しておるわけであります。

県内の感染状況が、変異株に置き換わったこともあって、**北村山中体連のガイドライン**も入念に再点検・再整備がなされ、5月末にて各校に発出されました。

基本的な考え方は、「例年とおりの大会運営とは、全く異なる」ということとを、関係各位等に周知・徹底の上で開催すべし」ということであります。

各競技種目の特性を踏まえつつも、**運営方法、開閉会式の簡略化、会場滞在時間の軽減等**、出来ることは、最大限努力しなければなりません。

また、集団感染の未然防止策については、「選手任せにするのではなく、運営に当たる私たち大人が模範を示し、徹底を図る、子どもたちを守る、ということ」であります。

それでは、2週間後に迫った地区総体が、生徒たちの活躍の舞台として保障されるよう、この後の諸準備とご協力をよろしくお願い致します。